平成29年3月29日

都道府県医師会担当理事 殿

小児慢性特定疾病の追加に係る事前周知について

時下益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

今般、標記の件について、厚生労働省健康局疾病対策課より、各都道府県等小児慢性 特定疾病対策担当課宛通知がなされ、本会に対しても情報提供がありました。

本件は、社会保障審議会児童部会小児慢性特定疾患児への支援の在り方に関する専門委員会における議論等を踏まえて、児童福祉法第6条の2第1項に規定する小児慢性特定疾病について、平成29年4月より18疾病を追加し、あわせて722疾病が対象となるとともに、追加する小児慢性特定疾病に関する医療意見書様式(案)について、事前に周知するものであります。

つきましては、貴会におかれましても本件についてご了知いただき、貴会管下郡市区 医師会及び関係医療機関等への周知方よろしくご高配のほどお願い申し上げます。 公益社団法人 日本医師会 御中

厚生労働省健康局難病対策課

小児慢性特定疾病の追加にかかるご連絡について

日頃から厚生労働行政の推進に御尽力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、児童福祉法第6条の2第1項に規定する小児慢性特定疾病については、 社会保障審議会児童部会小児慢性特定疾患児への支援の在り方に関する専門委 員会における議論やパブリックコメントの御意見を踏まえ、平成29年4月より、 18疾病を追加することとしています。

都道府県、指定都市、中核市及び小児慢性特定疾病指定医における支給認定事務の円滑な実施に資するため、別添の事務連絡を都道府県、指定都市、中核市の小児慢性特定疾病担当課宛てお送りしておりますこと、お知らせいたします。

【別添一覧】

(事務連絡) 小児慢性特定疾病の追加について

各 都道府県 指定都市 中 核 市

小児慢性特定疾病対策担当課 御中

厚生労働省健康局難病対策課 小児慢性特定疾病係

小児慢性特定疾病の追加について

小児慢性特定疾病対策の推進については、平素から格別の御協力を頂き厚く御礼申 し上げます。

さて、児童福祉法第6条の2第1項に規定する小児慢性特定疾病については、社会保障審議会児童部会小児慢性特定疾患児への支援の在り方に関する専門委員会における議論やパブリックコメントの御意見を踏まえ、平成29年度実施分として、18疾病を追加することとしています。

都道府県、指定都市、中核市における今後の支給認定事務の円滑な実施に資するため、別添1から3について、事前に送付いたしますので、ご参考としていただけますようお願いいたします。

なお、別添2及び別添3は現時点の案であり、変更があった場合にはお知らせする ことを申し添えます。

また、別添3の医療意見書については、近日中に「小児慢性特定疾病情報センター」 (http://www.shouman.jp/) に掲載します。

(別添一覧)

- ・別添1 追加する小児慢性特定疾病及び当該小児慢性特定疾病にかかる疾病の状態の程度
- ・別添2 「児童福祉法(昭和二十二年法律第百六十四号)第六条の二第一項及び第二項の規定に基づき、児童福祉法第六条の二第一項の規定に基づき厚生労働大臣が定める小児慢性特定疾病及び同条第二項の規定に基づき当該小児慢性特定疾病ごとに厚生労働大臣が定める疾患の状態の程度(平成二十六年厚生労働省告示第四百七十五号)」の一部改正(案)について(新旧対照表)
- ・別添3 追加する小児慢性疾病に関する医療意見書様式(案)

別添1

追加する小児慢性特定疾病及び当該小児慢性特定疾病にかかる疾病の状態の程度

運動障害、知的障害、意識障害、自閉傾向、行動障害(自傷行為又は多動)、けいれん発作、皮膚所見(疾病に特徴的で、治療を要するものをいう。)、呼吸異常、体温閉節異常、温痛覚低下、骨折又は脱日のうち一つ以上の症状が続く場合 運動障害、知的障害、意識障害、自閉傾向、行動障害(自傷行為又は多動)、けいれん発作、皮膚所見(疾病に特徴的で、治療を要するものをいう。)、呼吸異常、体温調節異常、温痛覚低下、骨折又は脱臼のうち一つ以上の症状が続く場合 次のいずれかに該当する場合 ア 骨折又は脱臼の症状が糖(場合 イ 重度の四肢変形、脊柱側弯又は脊髄麻庫のうち一つ以上の症状に対する治療が必要な場合 ウ 治療で呼吸管理(人工呼吸器、気管切開術後、経鼻エアウェイ等の処置を必要とするものをいう。)又は酸素療法を行う場合 次のいずれかに該当する場合 ア 骨折又は脱臼の症状が続く場合 イ 重度の四肢変形、脊柱側弯又は脊髄麻痺のうち一つ以上の症状に対する治療が必要な場合 ウ 治療で呼吸管理(人工呼吸器、気管切開術後、経鼻エアウェイ等の処置を必要とするものをいう。)又は酸素療法を行う場合 エ 血液凝固異常に対する治療を行う場合 次のいずれかに該当する場合 ア 骨折又は脱臼の症状が続く場合 イ 重度の四肢変形、脊柱側弯又は脊髄麻痺のうち一つ以上の症状に対する治療が必要な場合 ウ 治療で呼吸管理(人工呼吸器、気管切開術後、経鼻エアウェイ等の処置を必要とするものをいう。)又は酸素療法を行う場合 けいれん発作、意識障害、運動障害、排尿排便障害又は温痛覚低下のうち一つ以上の症状が続く場合 疾病の状態の程度 疾病の状態の程度 (工順) (日日) (三回) (三回) 治療で補充療法、機能抑制療法その他の薬物療法を行っている場合 治療が必要な場合 点状軟骨異形成症(ペルオキシソーム 病を除く。) 先天性サイトメガロウイルス感染症 先天性トキソプラズマ感染症 ハッチンソン・ギルフォード症候群 2型コラーゲン異常症関連疾患 ビールズ症候群 ラーセン症候群 疾病名 疾病名 先天性囊胞性肺疾患 多発性軟骨性外骨腫症 TRPV4異常症 偽性軟骨無形成症 内軟骨腫症 脊髓脂肪腫 鐵三衛 慢性呼吸器疾患 区分 第十一表 神経·筋疾患 区分 先天性囊胞性肺疾患 変形 性筋 ジストニー 先天性懸染症 脊髓髄膜瘤 第二表 早老症

基準(ア)又は基準(ク)を満たす場合 基準(ア)を満たす場合 基準(ウ)を満たす場合 基準(イ)を満たす場合又は大動脈瘤破裂の場合若しくは破裂が予想される場合 疾病の状態の程度 カムラティ・エンゲルマン症候群 色素失調症 ハーラマン・ストライフ症候群 ロイス・ディーツ症候群 第十三表 染色体又は遺伝子に変化を伴う症候群 区分 | 発色体又は遺伝子に変 化を伴う症候群

<編札>

本表中「基準(ア)」、「基準(イ)」、「基準(ウ)」及び「基準(エ)」とは、それぞれ次の表の右欄に掲げる基準をいう。

基準(ア)	症状として、けいれん発作、意識障害、体温調節異常、骨折又は脱臼のうち一つ以上続く場合であること。
基準(イ)	治療で、強心薬、利尿薬、抗不整脈薬、抗血小板薬、抗凝固薬、末梢血管拡張薬、β遮断薬のうち一つ以上が投与されている場合であること。
基準(ウ)	治療で、呼吸管理(人工呼吸器、気管切開術後、経鼻エアウェイ等の処置を必要とするものをいう。)、酸素療法又は胃管、胃瘻、中心静脈栄養等に よる栄養のうち一つ以上を行う場合であること。
基準(工)	腫瘍を合併し、組織と部位が明確に診断されている場合であること。ただし、治療から5年経過した場合は対象としないが、再発などが認められた場合は、再度対象とする。

0 性特定疾病ごとに厚生労働大臣が定める疾病の状態の程度 児童福祉法第六条の二第一項の規定に基づき厚生労働大臣が定める小児慢性特定疾病及び同条第二項の規定に基づき当該小児慢 (平成二十六年厚生労働省告示第四百七十五号) 抄)

(傍線部分は改正部分)

児童福祉法第六条の二第一項の規定に基づき厚生労働大臣が定める小児慢性特定疾病及び同条第二項の規定に基づき当該小児慢性特定疾病ごとに厚生労働大臣が定める疾病の状態の程度は第一表から第十四表までに掲げるとおりとする。

改

正

後

第一表・第二表 (略)

第三表 慢性呼吸器疾患

照 に 児童福祉法第六条の二第一項の規定に基づき厚生労働大臣が定める小児慢性特定疾病及び同条第二項の規定に基づき当該小児慢性特定疾病ごとに厚生労働大臣が定める疾病の状態の程度は第一表から第十四表までに掲げるとおりとする。

第一表・第二表 (略)

第三表 慢性呼吸器疾患

										 	-	_	. 4
田 無 注 細 気 管	線維症	囊胞性	ーシス	ジデロ	第へよ	突発性	症候群	能不全	線毛機	(新設)	(器)	区分	 X X
12	2	11				10			9			岩岩	上口 次带次心
汨蒌性神风官义众	一大大人 一大十八	囊胞性線維症			ローシス	突発性肺ヘモジデ	症候群を含む。)	群(カルタゲナー	線毛機能不全症候			疾病名	部のでは
行業が必要な場合		治療が必要な場合				治療が必要な場合			治療が必要な場合			疾病の状態の程度	

基 基 基 基 基 基 基 基 基 基	1	高	
慢性肺	14	慢性肺疾患	治療で呼吸管理
浜患			人工呼吸
			切開術後
			アウェイ等の処
			を必要とするもの
			いな
			療法又は中心静脈
			栄養のうち一
			上を行う場合
リンパ	<u>15</u>	リンパ管腫/リン	治療が必要な場合
管腫/		パ管腫症	
リンパ			
利用作			

第四表 (略)

第五表 表 (略)

施融

I 開始基準

新たに治療を開始する場合は、次の要件を満たすこと。

- 1~3 (累)
- 4 <u>腎機能低下</u>による低身長の場合 現在の身長が別表第 一に掲げる値以下であること。

II 継続基準

次のいずれかに該当すること。

- 1 (累)
- 2 <u>腎機能低下、ターナー症候群、プラダー・ウィリ症</u>候

			管腫症
			リンパ
	パ管腫症		管腫/
治療が必要な場合	リンパ管腫/リン	14	リンパ
上を行う場合			
栄養のうちーし以			
療法又は中心静脈			
をいう。)、酸素			
を必要とするもの			
アウェイ等の処置			
切開術後、経鼻エ			
人工呼吸器、気管			疾患
治療で呼吸管理	慢性肺疾患	13	慢性肺
			支炎

第四表 (略)

第五表 表 (略)

推制

I 開始基準

・ デニー 新たに治療を開始する場合は、次の要件を満たすこと。

1~3 (略)

4 <u>慢性腎不全</u>による低身長の場合 現在の身長が別表第 一に掲げる値以下であること。

1 継続基準

次のいずれかに該当すること。

- 1 (累)
- 2 慢性腎不全、ターナー症候群、プラダー・ウィリ症候

群、軟骨低形成症又は軟骨無形成症による低身長の場合初年度は、年間成長速度が4.0cm/年以上又は治療中1年間の成長速度と治療前1年間の成長速度との差が1.0cm/年以上であること。治療2年目以降は、年間成長速度が2.0cm/年以上であること。治療3年目以降は、年間成長年間成長速度が1.0cm/年以上であること。

11 (器)

第六表~第十表 (略)

第十一表 神経·筋疾患

が記述	遺伝子												全脳炎	硬化性	田 愈在	区分
	2														1	号
	アレキサンダー病													炎	亜急性硬化性全脳	疾病名
害、意識障害、自	運動障害、知的障	続く場合	一つ以上の症状が	折又は脱臼のうち	、温痛覚低下、骨	常、体温調筋異常	いう。)、呼吸異	療を要するものを	病に特徴的で、治	作、皮膚所見(疾	動)、けいれん発	(自傷行為又は多	閉傾向、行動障害	害、意識障害、自	運動障害、知的障	疾病の状態の程度

群、軟骨低形成症又は軟骨無形成症による低身長の場合初年度は、年間成長速度が4.0cm/年以上又は治療中1年間の成長速度と治療前1年間の成長速度との差が1.0cm/年以上であること。治療2年目以降は、年間成長速度が2.0cm/年以上であること。治療3年目以降は、年間成長年間成長速度が1.0cm/年以上であること。

田 (器)

第六表~第十表 (略)

第十一表 神経·筋疾患

異常に	遺伝子												全脳炎	硬化性	用侧在	区分	
-	2															卷	
	アレキサンダー病													炎	亜急性硬化性全脳	疾病名	
害、意識障害、自	運動障害、知的障	続く場合	一つ以上の症状が	折又は脱臼のうち	、温痛覚低下、骨	常、体温調節異常	いう。)、呼吸異	療を要するものを	病に特徴的で、治	作、皮膚所見(疾	動)、けいれん発	(自傷行為又は多	閉傾向、行動障害	害、意識障害、自	運動障害、知的障	疾病の状態の程度	

			症候群	エーブ	グティ	· 7 1	エカル					I												質脳症	よる日
							7		6		បា	4	ω												
						イエール症候群	エカルディ・グテ	ルツバッヘル病	ペリツェウス・メ	大頭型白質脳症	皮質下囊胞をもつ	白質消失症	カナバン病												
一族を要するものを	病に特徴的で、治	作、皮膚所見(疾	動)、けいれん発	(自傷行為又は多	閉傾向、行動障害	害、意識障害、自	運動障害、知的障		司上		司上	同上	同上	続へ場合	一つ以上の症状が	折又は脱臼のうち	、温痛覚低下、骨	常、体温調節異常	いう。)、呼吸異	療を要するものを	病に特徴的で、治	作、皮膚所見(疾	動)、けいれん発	(自傷行為又は多	
			症候群	ナール	ガティ	・バイ・	エカル																	質脳症	9 e I
							7		6		ഗ	4	ω												
						イエール症候群	エカルディ・グテ	ルツバッヘル病	ペリツェウス・メ	大頭型白質脳症	皮質下囊胞をもつ	白質消失症	カナバン病												
療を悪するものを	病に特徴的で、治	作、皮膚所見(疾	動)、けいれん発	(自傷行為又は多	閉傾向、行動障害	害、意識障害、自	運動障害、知的障		司上		司上	同上	司上	続く場合	一つ以上の症状が	折又は脱臼のうち	、温痛覚低下、骨	常、体温調節異常	いう。)、呼吸異	療を要するものを	病に特徴的で、治	作、皮膚所見(疾	動)、けいれん発	(自傷行為又は多	

血管拡張薬、β 遮 断薬、肺血管拡張				販楽、β 卨				
抗不整脈薬				原樂、末 档	抗木縣			
強心薬、利尿薬、	トロフィー			強心薬、利尿薬、	強心難、	トロフィー		
ス 合又は治療と	イフス型筋ジス			音療として	合又は治療	イフス型筋ジス		
/ 運動障害が続	Hメリー・ドレ	9		曹が続く場	運動障害が続	エメリー・ドレ	9	
続く場合			·		続へ掘る			
一つ以上の症状が				り以上の疽状が	ーり以上			
折又は脱臼のう				芥又は既臼のうち	折又は服			
、温痛覚低下				党低下、骨	、温痛			
常、体温調節異常				、体温調節異常	常、体验			
いう。)、呼吸異				、呼吸異	いう。)			
療を要するものを				要するものを	療を要し			
病に特徴的で、				病に特徴的で、治	病に特別			
作、皮膚所見				皮膚所見(疾	作、皮质			
動)、けいれん発				、けいれん発	動)、『			
(自傷行為又は多	を含む。)			(自傷行為又は多)	(自傷作	を含む。)		
s <mark></mark> 閉傾向、行動障害	イー(類縁疾患		1	行動障害	閼傾向、	イー(類縁疾患		1
7 書、意識障害	性筋ジストロフ		トロフ	意識障害、自	書、意識	性筋ジストロフ		トロフ
₹ 運動障害、知的障	ウルリヒ型先天	∞	筋ジス	 	運動障害	ウルリヒ型先天	∞	筋ジス
続く場合					続く場合			
一つ以上の症状が				上の症状が	一つ以上の			
折又は脱臼のうち				折又は脱臼のうち	折又は肌			
、温痛覚低下、骨				管低下、骨	、温痛覚低			
常、体温調節異常				体温調節異常	常、体温			
いう。) 、				、呼吸異	いう。)			

13	12	11	10	
福山型先天性筋ジストロフィー	デュシェンヌ型筋ジストロフィー	肢帯型筋ジスト	顔面肩甲上腕型筋ジストロフィー	
運動障害、知的障害、意識障害、自盟傾向、行動障害(自傷行為又は多り、けいれん発動)、けいれん発動)、皮膚所見(疾病に特徴的で、治	<u> </u>	一	III	米、 は、

13	12	11	10	
福山型先天性筋ジストロフィー	デュシェンヌ型 筋ジストロフィ ー		額面肩甲上腕型 筋ジストロフィ	
運動障害、知的障害、意識障害、自閉傾向、行動障害(自傷行為又は多(自傷行為又は多動)、けいれん発動)、けいれん発育、皮膚所見(疾病に特徴的で、治	司上	司上	印上	業、早夜間無、早夜間五、八里段器、早夜間直別部後、然野町 ウェイ等の心量を必要った。)、職素療法、中心静脈栄養が、中心静脈栄養が、中心静脈栄養が、中心部脈、中心部脈形、中心が高いない。)は、中心神脈、神心が上へは、神に、中心神脈、神が、中心神脈、神が、中心神脈、神が、中心神脈、水水・水水・水水・水水・水水・水水・水水・水水・水水・水水・水水・水水・水水・

			_								
· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	骨系統										
	15			14							
	偽性軟骨無形成症	ロフィー	先天性筋ジスト	メロシン欠損型							
当する場合 フ 骨折又は既日 の症状が続く場 合	次のいずれかに該			司上	続く場合	一 ら 以 上 の 症 状 が	折又は脱臼のうち	、温痛覚低下、骨	常、体温調節異常	いう。)、呼吸異	療を要するものを
	(新設)										
				14							
		ロフィー	先天性筋ジスト	メロシン欠損型							
				司上	続へ場合	一つ以上の症状が	折又は脱臼のうち	、温痛覚低下、骨	常、体温調節異常	いう。)、呼吸異	療を要するものを

	18	17	<u>16</u>	
(ペルオキシソー 方病を除く。)	l≩Dr	TRPV4異常症	多発性軟骨性外骨 腫症	
四十名場合	次のいずれかに該	同上	田上	<u>とするものをい</u> <u>う。) 又は酸素</u> <u>療法を行う場合</u>

22	21	20									_									<u>19</u>		
2 ラーセン症候群	1 ビールズ症候群	<u>2型コラーゲン異</u><u>常症関連疾患</u>																		9 内軟骨腫症		
工间	司上	司上	療法を行う場合	う。)又は酸素	とするものをい	等の処置を必要	経鼻エアウェイ	気管切開術後、	理(人工呼吸器、	ウ 治療で呼吸管	が必要な場合	状に対する治療	た一し以上の症	は脊髄麻痺のう	形、脊柱側弯又	1 重度の四肢変	の症状が続く場	ア 骨折又は脱臼	当する場合	次のいずれかに該	行う場合	に対する治療を

1				
- 1				
1				
1	1			- 1
- 1	Fi .			
1				
- 1				

								連疾患	候群関	ーラ前	ベサン													無力症	重 重
									<u>Æni</u>	1111	× 24													tur.	123
										群関連疾患	ジュベーブ症候														単独助無力症
折又は脱臼のうち	、温痛覚低下、骨	常、体温調節異常	いう。)、呼吸異	療を要するものを	病に特徴的で、治	作、皮膚所見(疾	動)、けいれん発	(自傷行為又は多	閉傾向、行動障害	害、意識障害、自	運動障害、知的障	続へ場合	一つ以上の症状が	折又は脱臼のうち	、温痛覚低下、骨	常、体温調節異常	いう。)、呼吸異	療を要するものを	病に特徴的で、治	作、皮膚所見(疾	動)、けいれん発	(自傷行為又は多	閉傾向、行動障害	害、意識障害、自	
								連疾患		ーーラ前	が カ ジ													無力症	里/亚///
											16													_	ľ
										群関連疾患	ジュベール症候														电阻影影/3 用
芥又は脱臼のうち	、温痛覚低下、骨	常、体温調節異常	いう。)、呼吸異	療を要するものを	病に特徴的で、治	作、皮膚所見(疾	動)、けいれん発	(自傷行為又は多	閉傾向、行動障害	書、意識障害、自	運動障害、知的障	続へ場合	一つ以上の症状が	折又は脱臼のうち	、温痛覚低下、骨	常、体温調節異常	いう。)、呼吸異	療を要するものを	病に特徴的で、治	作、皮膚所見(疾	動)、けいれん発	(自傷行為又は多	閉傾向、行動障害	害、意識障害、自	- (

								互性片											君羊	ル症候	サソシ	ルツ・	シュワ		
								神	26 小児交互性片麻													ペル症候群	25 シュワルツ・ヤン		
常、体温調節異常	いう。)、呼吸異	療を要するものを	病に特徴的で、治	作、皮膚所見(疾	動)、けいれん発	(自傷行為又は多)	閉傾向、行動障害	害、意識障害、自	運動障害、知的障	続へ場合	一つ以上の症状が	折又は既臼のうち	、温痛覚低下、骨	常、体温調節異常	いう。)、呼吸異	療を要するものを	病に特徴的で、治	作、皮膚所見(疾	動)、けいれん発	(自傷行為又は多	閉傾向、行動障害	害、意識障害、自	運動障害、知的障	続へ場合	ラグイツ用会会
							· 秦 華	耳性片	小児交										群	ラ症候	サンプ	ルツ・	シュワ		
								神	18 小児交互性片麻													ペル症候群	17 シュワルツ・ヤン		
常、体温調節異常	いう。)、呼吸異	療を要するものを	病に特徴的で、治	作、皮膚所見(疾	動)、けいれん発	(自傷行為又は多	閉傾向、行動障害	害、意識障害、自	運動障害、知的障	続く場合	一つ以上の症状が	折又は脱臼のうち	、温痛覚低下、骨	常、体温調節異常	いう。)、呼吸異	療を要するものを	病に特徴的で、治	作、皮膚所見 (疾	動)、けいれん発	(自傷行為又は多	閉傾向、行動障害	害、意識障害、自	運動障害、知的障	続へ場合	リンドの

ミオク	進行性																		莽	膚症候	神経皮				
	31		<u>30</u>	<u>29</u>			28														27				
一・アントボルク病	ウンフェルリヒト	リンドウ病	フォンヒッペル・	神経皮膚黒色症	候群)	(基底細胞母斑症	ゴーリン症候群														結節性硬化症				
害、意識障害、自	運動障害、知的障		国上	同上			同上	続く場合	一つ以上の症状が	折又は脱臼のうち	、温痛覚低下、骨	常、体温調節異常	いう。)、呼吸異	療を要するものを	病に特徴的で、治	作、皮膚所見(疾	動)、けいれん発	(自傷行為又は多	閉傾向、行動障害	害、意識障害、自	運動障害、知的障	続く場合	一つ以上の症状が	折又は脱臼のうち	、温痛覚低下、骨

ベオク	進行性																		莽	膚症候	神経皮				
	23		22	21			20														19				
・・ラントボルク病	ウンフェルリヒト	リンドウ病	フォンヒッペル・	神経皮膚黒色症	候群)	(基底細胞母斑症	ゴーリン症候群														結節性硬化症				
害、煮識障害、自	運動障害、知的障		司上	同上			司上	続く場合	一つ以上の症状が		、温痛覚低下、骨	常、体温調節異常	いう。)、呼吸異	療を要するものを	病に特徴的で、治	作、皮膚所見 (疾	動)、けいれん発	(自傷行為又は多	閉傾向、行動障害	害、意識障害、自	運動障害、知的障	続く場合	一つ以上の症状が		

										抓	期癒合	縫合早	頭蓋骨											かん	スてん	メーロ
													133	32												
													アペール症候群	ラフォラ病												
一0以引の旓決が	折又は脱臼のうち	、温痛覚低下、骨	狀	Fá	いう。)、呼吸異	療を要するものを			動)、けいれん発	(自傷行為又は多	閉傾向、行動障害	害、意識障害、自	運動障害、知的障	间上	続く場合	一つ以上の症状が	折又は脱臼のうち	、温痛覚低下、骨	常、体温調節異常	いう。)、呼吸異	療を要するものを	病に特徴的で、治	作、皮膚所見(疾	動)、けいれん発	(自傷行為又は多	閉傾向、行動障害
										걖	期癒合	縫合早	頭蓋骨											かん	スてん	X D
													25	24												
													アペール症候群	ラフォラ病												
一一し以上の症状が	折又は脱臼のうち	、温痛覚低下、骨	完、 体温調節異常		一いう。)、	療を要するものを	病に特徴的で、治	作、皮膚所見(疾	動)、けいれん発	(自傷行為又は多	閉傾向、行動障害	害、意識障害、自	運動障害、知的障	同上	続く場合	一つ以上の症状が		、温痛覚低下、骨	常、体温調節異常	いう。)、呼吸異	療を要するものを	病に特徴的で、治	作、皮膚所見(疾	動)、けいれん発	(自傷行為又は多	閉傾向、行動障害

脊髓調 膜 瘤 ·		指 脳 症體 変 性		
38		37	36	35
脊髓脂肪腫		脊髄小脳変性症	33から35までに掲げるもののほか、 重度の頭蓋骨早期 癒合症	クルーゾン病 非症候性頭蓋骨縫 合早期癒合症
けいれん発作、意	病に特徴的で、治療を興するものをいう。)、早吸異に、各温調節異常に、海消滅所下、骨が又は既田のうちがしるいより	運動障害、知的障害、意識障害、自 悪領向、行動障害 目 関領向、行動障害 (自傷行為又は多)、けいれん発動)、けいれん発	\	

脊髓髓 膜瘤。												氘	脳変性	脊髄小							
														<u>29</u>				28		27	26
(新設)														脊髓小脳変性症	癒合症	重度の頭蓋骨早期	げるもののほか、	25から27までに掲	合早期癒合症	非症侯性頭蓋骨縫	クルーゾン病
	続く場合	一つ以上の症状が	折又は脱臼のうち	、温痛覚低下、骨	常、体温調節異常	いう。)、呼吸異	療を要するものを	病に特徴的で、治	作、皮膚所見(疾	動)、けいれん発	(自傷行為又は多	閉傾向、行動障害	害、意識障害、自	運動障害、知的障				回上		回上	回

統整	脊髓性		
	41		39
	脊髓髄膜 瘤 脊髓性筋萎縮症		髄膜脳 瘤
、し薬」、の故し管	運動障害が続く場	障自)動障疾治を異常骨ちが	<u>ち一つ以上の症状</u> が続く場合 けいれん発作、自

					氘	筋萎縮	脊髓性																	
							<u>32</u>	31															30	
							脊髄性筋萎縮症	脊髓髄膜 ["] 瘤															髄膜脳 瘤	
一	甲烷二二甲烷二甲甲烷二甲甲烷二甲甲烷二甲甲烷二甲甲烷二甲甲烷二甲甲烷二甲甲烷二	一断燥、黠血管状器	血管拡張薬、β遮	抗不整脈薬、末梢	強心薬、利尿薬、	合又は治療として	運動障害が続く場	同上	く場合	一つ以上の症状が続	又は脱臼のうちー	温痛覚低下、骨折	、体温調節異常、	う。)、呼吸異常	を要するものをい	に特徴的で、治療	、皮膚所見(疾病	書、排尿排便障害	知的障害、運動障	行動又は多動)、	、行動障害(<u>自傷</u>	閉傾向、意識障害	けいれん発作、自	

															感染症	先天性									
44		43														<u>42</u>									
先天性風疹症候群	ズマ感染症	先天性トキソプラ													ロウイルス感染症	先天性サイトメガ									
同上		工匠	続く場合	一つ以上の症状が	折又は脱臼のうち	、温痛覚低下、骨	常、体温調節異常	いう。)、呼吸異	療を要するものを	病に特徴的で、治	作、皮膚所見(疾	動)、けいれん発	(自傷行為又は多	閉傾向、行動障害	害、意識障害、自	運動障害、知的障	る場合	継続的に行ってい	のうち一つ以上を	若しくは経管栄養	法、中心静脈栄養	いう。)、酸素療	必要とするものを	ウェイ等の処置を	開術後、経鼻エア
															感染症	先天性									
33																	(20								
先天性風疹症候群		(新設)														(新設)									
運動障害、知的障																	る場合	継続的に行ってい	のうちーつ以上を	者しくは経管栄養	法、中心静脈栄養	いう。)、酸素療	必要とするものを	ウェイ等の処置を	開術後、経鼻エア

常、体温調節異常、温痛覚低下、骨	いう。)	療を要するものを	病に特徴的で、	作、皮膚所見(疾	動)、けいれん発	(自傷行為又は多	関傾向、行動障害	ューロパチー 害、意識障害、	35 遺伝性運動感覚二 運動障害、	イルス感染症	34 先天性ヘルペスウ 同上	続く場合	一つ以上の症状が	折又は脱臼のうち	、温痛覚低下、	常、体温調節異常	いろ。)	療を要するものを	病に特徴的で、	作、皮膚所見	動)、けいれん発	(自傷行為又は多	閉傾向、	吉、
						ſ	ロパチ	 	先天性															
常、体温調節異常 、温痛覚低下、骨	S	療を要するものを	病に特徴的で、治	作、皮膚所見(疾	動)、けいれん発	(自傷行為又は多)	閉傾向、行動障害	害、意識障害、自	運動障害、知的障		间上													
								ユーロパチー	46 遺伝性運動感覚二	イルス感染症	45 先天性ヘルペスウ													
						[ロパチ	 	先天性 4		142													

																		7	ルイン	先天性				
52	<u>51</u>	<u>50</u>	<u>49</u>																	48	<u>47</u>			
ミオチュブラーミ	マルチコア病	ネマリンミオパチ	セントラルコア病																等症	先天性筋線維不均	先天性無痛無汗症			
国上	同上	十日	同上	る場合	継続的に行ってい	のうちーつ以上を	若しくは経管栄養	法、中心静脈栄養	いう。)、酸素療	必要とするものを	ウェイ等の処置を	開術後、経鼻エア	工呼吸器、気管切	薬、呼吸管理(人	断薬、肺血管拡張	血管拡張薬、β遮	抗不整脈薬、末補	強心薬、利尿薬、	合又は治療として	運動障害が続く場	可上	続へ掘合	一し以上の症状が	折又は脱臼のうち

																			4	ルサン。	先天性				
41	<u>40</u>		39	38																	37	36			
ミオチュブラーミ	マルチコア病	[ネマリンミオパチ	セントラルコア病																等症	先天性筋線維不均	先天性無痛無汗症			
— 一 日 上	同上		同上	同上	る場合	継続的に行ってい	のうちーつ以上を	若しくは経管栄養	法、中心静脈栄養	いう。)、酸素療	必要とするものを	ウェイ等の処置を	開術後、経鼻エア	工呼吸器、気管切	薬、呼吸管理(人	断薬、肺血管拡張	血管拡張薬、β遮	抗不整脈薬、末梢	強心薬、利尿薬、	合又は治療として	運動障害が続く場	回上	続へ場合	一つ以上の症状が	学又は既山のっち

	Į.			早老症														奇形腫	仙尾部					
57				56															55			54	53	
コケイン症候群				ウェルナー症候群															仙尾部奇形腫	先天性ミオパチー	げるもののほか、	48から53までに掲	ミニコア病	オパチー
運動障害、知的障害、意識障害、自	っている場合	他の薬物療法を行	機能抑制療法その	治療で補充療法、	へ掘合	し以上の症状が続	又は脱臼のうちー	温痛覚低下、骨折	、体温調節異常、	う。)、呼吸異常	を要するものをい	に特徴的で、治療	、皮膚所見(疾病	害、排尿排便障害	知的障害、運動障	行為又は多動)、	、行動障害(<u>自傷</u>	閉傾向、意識障害	けいれん発作、自			可上	回上	

	24			早老症														奇形腫	仙尾部					
46				45															44			43	<u>42</u>	
コケイン症候群				ウェルナー症候群															仙尾部奇形腫	先天性ミオパチー	げるもののほか、	37から42までに掲	ミニコア病	オハナー
運動障害、知的障害、意識障害、自	っている場合	他の薬物療法を行	機能抑制療法その	治療で補充療法、	く場合	つ以上の症状が続	又は脱臼のうちー	温痛覚低下、骨折	、体温調節異常、	う。)、呼吸異常	を要するものをい	に特徴的で、治療	、皮膚所見(疾病	害、排尿排便障害	知的障害、運動障	行動又は多動)、	、行動障害(<u>自傷</u>	閉傾向、意識障害	けいれん発作、自			同上	則上	

常、体温調節異常				常、体温調節異常			
いう。)、呼吸異				いう。)、呼吸異			
療を要するものを				療を要するものを			
病に特徴的で、治				病に特徴的で、治			
作、皮膚所見(疾				作、皮膚所見(疾			
動)、けいれん発				動)、けいれん発			
(自傷行為又は多				(自傷行為又は多)			
閉傾向、行動障害				閉傾向、行動障害			
害、意識障害、自			硬化症	害、意識障害、自			硬化症
運動障害、知的障	多発性硬化症	<u>47</u>	多発性	運動障害、知的障	多発性硬化症	<u>59</u>	多発性
				っている場合			
				他の薬物療法を行			
				機能抑制療法その	ルフォード症候群		
	(新設)			治療で補充療法、	ハッチンソン・ギ	58	
続く場合				続く場合			T
一つ以上の症状が				一つ以上の症状が			
				折又は脱臼のうち			
、温浦覚低下、骨				、温痛覚低下、骨			
常、体温調節異常				常、体温調節異常			
いう。)、呼吸異				いう。)、呼吸異			
療を要するものを				療を要するものを			
病に特徴的で、治				病に特徴的で、 治			
作、皮膚所見(疾				作、皮膚所見(疾			
動)、けいれん発				動)、けいれん発			
(自傷行為又は多				(自傷行為又は多)			
矧傾回、行動障害				閉傾向、行動障害			

(自傷行為又は多			積型急
閉傾向、行動障害			発作重
害、意識障害、自	重積型急性脳炎		回部分
運動障害、知的障	難治頻回部分発作	63	難治頻
	ト一症候群		
司上	レノックス・ガス	<u>62</u>	
	ニーてんかん		
山上	乳児重症ミオクロ	61	
続く場合			
一つ以上の症状が			
折又は脱臼のうち			
、温痛覚低下、骨			
常、体温調節異常			
いう。)、呼吸異			
療を要するものを			
病に特徴的で、治			
作、皮膚所見(疾			
動)、けいれん発			
(自傷行為又は多			
閉傾向、行動障害			過流
害、意識障害、自	エスト症候群)		んかん
運動障害、知的障	点頭てんかん(ウ	60	難治て
続く場合			
一つ以上の症状が			
折又は脱臼のうち			
、温痛覚低下、骨			

積型急	発作重	回部分	難治頻																透流	んかん	難治て				
			51		50		<u>49</u>														48				
		重積型急性脳炎	難治頻回部分発作	卜一症候群	レノックス・ガス	ニーてんかん	乳児重症ミオクロ													エスト症候群)	点頭てんかん(ウ				
(自傷行為又)法多	閉傾向、行動障害	害、意識障害、自	運動障害、知的障		司上		同上	続く場合	一つ以上の症状が	折又は脱臼のうち	、温痛覚低下、骨	常、体温調節異常	いう。)、呼吸異	療を要するものを	病に特徴的で、治	作、皮膚所見(疾	動)、けいれん発	(自傷行為又は多	閉傾向、行動障害	害、意識障害、自	運動障害、知的障	続く場合	一つ以上の症状が	折又は脱臼のうち	

53 滑脳症	脳形成	運動障害、知的障害、意識障害、自	滑脳症	<u>65</u>	脳形成障害
		続へ場合			
		一つ以上の症状が			
		折又は脱臼のうち			
		、温痛覚低下、骨			
		常、体温調節異常			
		いう。)、呼吸異			
		療を要するものを			
		病に特徴的で、治			
		作、皮膚所見(疾			
		動)、けいれん発			
		(自傷行為又は多			
	体壊死	閉傾向、行動障害			体뵳死
	剣線 条	害、意識障害、自	死		回線 条
	乳児両 52	運動障害、知的障	乳児両側線条体壊	64	乳児両
		続へ場合	i		
		ーし以上の屈状が			
		折又は脱臼のうち			
		、温痛覚低下、骨			
		常、体温調節異常			
		いう。)、呼吸異			
		療を要するものを			
		病に特徴的で、治			
		作、皮膚所見(疾			
	性脳炎	動)、けいれん発			在 影 ※

※	· 経% ・ 経 ・ に	弁が神	沈着を	脳の鉄																				
				71	<u>70</u>			<u>69</u>		68	67	<u>66</u>												
			トロフィー	乳児神経軸索ジス	裂脳症	症候群)	常症(ドモルシア	中隔視神経形成異	一力一症候群	ダンディー・ウォ	先天性水頭症	全前脳胞症												
動)、けいれん発作、皮膚所見(疾	(自傷行為又は多	閉傾向、行動障害	害、意識障害、自	運動障害、知的障	用上			甲上		刊	同上	回上	続く場合	一つ以上の症状が	折又は脱臼のうち	、温痛覚低下、骨	常、体温調節異常	いう。)、呼吸異	療を要するものを	病に特徴的で、治	作、皮膚所見(疾	動)、けいれん発	(自傷行為又は多	四家马、门乡科田

浜患	経変性	伴う神	沈着を	脳の鉄							,													
				<u>59</u>	58			<u>57</u>		<u>56</u>	55	54												
			トロフィー	乳児神経軸索ジス	裂脳症	症候群)	常症(ドモルシア	中隔視神経形成異	一力一症候群	ダンディー・ウォ	先天性水頭症	全前脳胞症												
動)、けいれん発作、皮膚所見(疾	(自傷行為又は多	界傾向、行動障害	害、意識障害、自	運動障害、知的障	同上			同上		司上	司上	同上	続く場合	一つ以上の症状が	折又は脱臼のうち	、温痛覚低下、骨	常、体温調節異常	いう。)、呼吸異	療を要するものを	病に特徴的で、治	作、皮膚所見(疾	動)、けいれん発	(自傷行為又は多	图 图 图 1 则 平 由

												7 11	筋ジス	淡形弦										_	
74														73			72								
変形性筋ジストニ						=								瀬川病	滸	ーゼ関連神経変性	パントテン酸キナ								
同上	続く場合	一つ以上の症状が	折又は脱臼のうち	、温痛覚低下、骨	常、体温調節異常	いう。)、呼吸異	療を要するものを	病に特徴的で、治	作、皮膚所見(疾	動)、けいれん発	(自傷行為又は多	閉傾向、行動障害	害、意識障害、自	運動障害、知的障			可上	続へ場合	一つ以上の症状が	折又は脱臼のうち	、温痛覚低下、骨	常、体温調節異常	いう。)、呼吸異	療を要するものを	病に特徴的で、治

	7 	筋ジス	変形性										
61					<u>60</u>								
			(新設)	一ゼ関連神経変性 症	パントテン酸キナ								
運動障害、知的障					同上	続く場合	一つ以上の症状が	折又は脱臼のうち	、温痛覚低下、骨	常、体温調節異常	いう。)、呼吸異	療を要するものを	地で特要的で、高

一一〇ジェの病未治	折又は脱臼のう	、 温痛覚低下、	常、体温調節異常	いち。)、	療を要するものを	病に特徴的で、	作、皮膚所見(疾	動)、けいれん発	チー (自傷行為又は多	性運動ニューロパ 閉傾向、行動障害	多発神経炎/多巣 害、意識障害、	慢性炎症性脱髄性 運動障害、	続く場合	一つ以上の症状が	折又は脱臼のうち	、温痛覚低下、	常、体温調節異常	いう。)	療を要するものを	病に特徴的で、	作、皮膚所見	動)、けいれん発	_(自傷行為又は多	閉傾向、行動障害	
					<i>7</i> °	H	H all	An	HX	dw.	70.	62													
				# _	ーロン。	動ニュ	巣性運		発神経	髓性多	症性脱	慢性炎													
とジェの祈寺法	折又は脱臼のうち	温痛覚低下、骨	体温調節異常)、呼吸異	療を要するものを	続に特徴的で、治	皮膚所見(疾	、けいれん発	(自傷行為又は多	閉傾向、行動障害	意識障害、自	章害、知的障													
ا <u>ک</u>	州又 ?	、温光	(記)	いう。)	療を調	が記れ	作、月	動)、	(自信	閉傾向	書、	運動障害													
									7-	性運動ニューロパ	多発神経炎/多巣	慢性炎症性脱髓性													
												75													
				7	「ロス	動ニュ	巣性運	※/※	発神経	贈注多	症性脱	慢性炎													

									シャン	ラスム 77													や滅	천 <u>76</u>	
										7 ラスムッセン脳炎														5 もやもや病	
、温浦覚低下、骨	常、体温調節異常	いう。)、呼吸異	療を要するものを	病に特徴的で、治	作、皮膚所見(疾	動)、けいれん発	(自傷行為又は多	閉傾向、行動障害	害、意識障害、自	運動障害、知的障	続へ場合	一つ以上の症状が	折又は脱臼のうち	、温痛覚低下、骨	常、体温調節異常	いう。)、呼吸異	療を要するものを	病に特徴的で、治	作、皮膚所見(疾	動)、けいれん発	(自傷行為又は多	閉傾向、行動障害	害、意識障害、自	運動障害、知的障	続へ 据台
								脳炎	ッカン	ラスム													や病	500	
										<u>64</u>														63	
										ラスムッセン脳炎														もやもや病	
一、淄崙前乐下、	常、体温調節異常	いう。)、呼吸異	療を要するものを	病に特徴的で、治	作、皮膚所見(疾	動)、けいれん発	(自傷行為又は多	閉傾向、行動障害	害、意識障害、	運動障害、知的障	続へ場合	一つ以上の症状が		、温痛覚低下、骨	常、体温調節異常	いう。)、呼吸異	療を要するものを	病に特徴的で、治	作、皮膚所見(疾	動)、けいれん発	(自傷行為又は多	閉傾向、行動障害	害、意識障害、自	運動障害、知的障	がにく物口

徭 十 症候群 てき 7 78 レット症候群 (世 折又は脱臼のうち 純、 いう。)、呼吸異 療を要するものを 病に特徴的で、治 害、意識障害、自 運動障害、知的障 続く場合 折又は脱臼のうち 続く場合 作、皮膚所見(疾 閉傾向、行動障害 一つ以上の症状が 一つ以上の症状が (自傷行為又は多 温痛覚低下、骨 、けいれん発 体温調節異常

1 | 表 (翠

第十三表 染色体又は遺伝子に変化を伴う症候群

候群	伴う症	淡化や	伝子に	又は遺	染色体	区分
		2			Ľ	光
		5 p —症候群		候群	アンジェルマン症	疾 病 名
ウ)を満たす場合	(イ) 又は基準(基準 (ア) 、基準	場合	準(ウ)を満たす	基準(ア)又は基	疾病の状態の程度

_			(器)	
続へ場合			l I	+
一つ以上の症状が				舥
折又は脱臼のうち				
、温痛覚低下、骨				
常、体温調節異常				
いう。)、呼吸異				
療を要するものを				
病に特徴的で、治				
作、皮膚所見(疾				
動)、けいれん発				
(自傷行為又は多				
閉傾向、行動障害				
書、意識障害、自			症候群	
群 運動障害、知的障	レット症候群	65	レジァ	
続く場合				
一つ以上の症状が				
折又は脱臼のうち				

第十三表 染色体又は遺伝子に変化を伴う症候群

候群	伴う症	変化を	伝子に	又は遺	染色体	区分
		2			H	番号
		5 p —症候群		侯群	アンジェルマン症	疾 病 名
ウ)を満たす場合	(イ) 又は基準(基準 (ア) 、基準	場合	準(ウ)を満たす	賽ね区 (乙) 軟罫	疾病の状態の程度

ı	10	9	∞				7		9			വ		4		ω
コステロ症候群	カムラティ・エングルマン症候群	歌舞伎症候群	ウィーバー症候群	XC//ター・フィリ イリ	リアムズ症候がプラブー・	が のもののほか、	356		4 p —症候群			ダウン症候群	群	18トリンミー症候	群	13トリンミー症候
基準 (ア)、基準	基準 (ア) 又は基 準 (ウ) を満たす 場合	基準 (ア)、基準 (イ) 又は基準 (ウ) を満たす場合	司上		を満たす場合)又は基準(上)	(ア) **、	150	基準 (ア)、基準	ПП(>	(イ)、基準(ウ	基準 (ア)、基準		回 上		间上

10			9	8							7			6				വ		4		ω
コステロ症候群	(新設)		歌舞伎症候群	ウィーバー症候群	◇。)	イリ症候群を除	及びプラダー・ウ	イリアムズ症候群	常染色体異常(ウ	げるもののほか、	1から6までに掲			4 p—症候群				ダウン症候群	群	18トリソミー症候	群	13トリソミー症候
基準(ア)、基準		ウ)を満たす場合		司上				を満たす場合) 又は基準 (エ)	(イ)、基準(ウ	基準(ア)、基準	ウ)を満たす場合	(イ) 又は基準(基準 (ア)、基準	を満たす場合) 又は基準 (エ)	(イ)、基準(ウ	基準(ア)、基準		司上		一 一

<u>19</u>	18			17			16	15				14			13		12			
<u>ハーラマン・スト</u> ライフ症候群	チャージ症候群			ソトス症候群		症候群	スミス・マギニス	色素失調症				CFC症候群		ンゲ症候群	コルネリア・デラ	一症候群	コフィン・ローリ			
基準 (ウ) を満た す場合	基準 (ア)、基準 (イ) 又は基準 (ウ) を満たす場合	Ι ⊔>)又は基準(カー	基準(ア)、基準	ウ)を満たす場合	(イ) 又は基準(基準(ア)、基準	基準(ア)を満た す場合	たす場合) 又は基準 (エ)	(イ)、基準(ウ	基準(ア)、基準	ウ)を満たす場合	(イ) 又は基準(基準(ア)、基準	寸揚 合	基準(ア)を満た	を満たす場合) 又は基準 (エ)	(イ)、基準(ウ

	1	200				1			
	16	15	14			13		12 11	
(新設)	チャージ症候群	ントス症候群	スミス・マギニス症候群	(新設)		CFC症候群	,,,,,	コフィン・ローリー症候群	
	基準 (ア) 、基準 (イ) 又は基準 (ウ) を満たす場合	基準 (ア)、基準 (イ)、基準 (ウ) 又は基準 (エ) を満たす場合	基準 (ア) 、基準 (イ) 又は基準 (ウ) を満たす場合) 又は基準 (エ) を満たす場合	基準 (ア)、基準 (イ)、基準 (ウ		基準(ア)を満たす場合	(イ)、基準(ウ) 又は基準(エ) を満たす場合

23	22	21	<u>20</u>
ロイス・ディーツ症候群	アだソシュタイン・テイビ症候群	マルファン症候群	ベックウィズ・ヴィーデマン症候群
基準 (イ) を満た す場合又は大動脈 瘤 破裂の場合若し く は破裂が予想さ れる場合	基準 (ア)、基準 (イ)、基準 (ウ) 又は基準 (エ) を満たす場合	基準 (イ) を満たす場合又は大動脈す場合又は大動脈瘤 破裂の場合若しくは破裂が予想される場合	基準(ウ)又は基準(エ)を満たす 場合

雅

本表中「基準 (ア)」、「基準 (イ)」、「基準 (ウ)」及び「基準 (エ)」とは、それぞれ次の表の右欄に掲げる基準をいう。

		基準 (イ)			基準
		$\overline{\mathcal{Z}}$			\mathcal{T}
β遮断薬のうち一つ以上が投与されている	小板薬、抗凝固薬、末梢血管拡張薬又は	治療で強心薬、利尿薬、抗不整脈薬、抗血	続く場合であること。	温調節異常、骨折又は脱臼のうち一つ以上	症状として、けいれん発作、意識障害、体

				19					<u>18</u>			17
(新設)			・テイビ症候群	ルビンシュタイン					マルファン症候群		イーデマン症候群	ベックウィズ・ヴ
	を満たす場合) 又は基準 (エ)	(イ)、基準(ウ	基準(ア)、基準	れる場合	くは破裂が予想さ	瘤破裂の場合若し	す場合又は大動脈	基準(イ)を満た	場合	準 (エ)を満たす	基準(ウ)又は基

推動

本表中「基準 (ア)」、「基準 (イ)」、「基準 (ウ)」及び「基準 (エ)」とは、それぞれ次の表の右欄に掲げる基準をいう。

発量(2)	中 * / > /		基準 (ア)
高粱で強心楽、利水楽、丸个盤叭楽、丸皿 小板薬、抗凝固薬、末梢 血管拡張薬又は β遮断薬のうち一つ以上が投与されている	た	温調節異常、骨折又は脱臼のうち一つ以上	症状として、けいれん発作、意識障害、体

	(1 0 1	_ ∃ [#
क थ		
再発などが認められた場合は、再度対象と		
65年を経過した場合は対象としないが、		
れている場合であること。ただし、治療か		
腫瘍を合併し、組織と部位が明確に診断さ	\widehat{H}	基準 (工)
を行う場合であること。		
中心静脈栄養等による栄養のうち一つ以上		
ものをいう。)、酸素療法又は胃管、胃瘻、		
後、経鼻エアウェイ等の処置を必要とする		
治療で呼吸管理(人工呼吸器、気管切開術	(4)	基基
場合であること。		

第十四嵌 (器)

別表第一 <u>腎機能低下</u>、後天性下垂体機能低下症、先天性下垂体機能低下症及び成長ホルモン(GH)分泌不全性低身長症(脳の器質的原因によるものを除く。)による低身長症用身長基準表 (略)

別表第二~第四 (略)

(五) (五) (五) (五) (五) (五) (五) (五) (五) (五)	+	
	基準 (ウ)	זאייר
		経鼻エアウェイ等の処置を必要
		中心静脈栄養等による栄養のうち一つ以上
		を行う場合であること。
れている場合であること。ただし、治療ら5年を経過した場合は対象としないな 再発などが認められた場合は、再度対象 する。	(工) 軟著	腫瘍を合併し、組織と部位が明確に診断さ
ら5年を経過した場合は対象としないな 再発などが認められた場合は、再度対象 する。		れている場合であること。ただし、治療か
再発などが認められた場合は、再度対象		ら5年を経過した場合は対象としないが
する。		再発などが認められた場合は、再度対象と
		900

第十四表 (略)

別表第一 <u>慢性腎不全</u>、後天性下垂体機能低下症、先天性下垂体機能低下症及び成長ホルモン(GH)分泌不全性低身長症(脳の器質的原因によるものを除く。)による低身長症用身長基準

別表第二~第四 (略)